

■社民党の回答

I 衆議院選挙における女性立候補者増への取り組みについて伺います。

衆議院議員選挙候補予定者における女性の人数と割合を教えてください。男女比が均等でないことについて、貴党県組織の見解をお尋ねします。

☆ 各ブロックの比例区予定候補	女性	5名	:	男性	1名
☆ 全国の各選挙区の予定候補	女性	4名	:	男性	5名

男女比は均等ではありませんが、努力の結果、総数で見ると9：6で女性が上回りしました。

II 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の改定を受けて県組織としての取り組みについて以下伺います。

① 男女の候補者の数の目標を策定していますか？

クォーター制、男女同数を目指して候補擁立に努力しています。

② 候補者の選定に県組織はどのようにかかわっていますか？

候補者は各県組織が選出し、全国連合に上申。その後全国連合執行部の判断に一任。

③ セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント等に県組織としてどのような取り組みをしていますか

新生社民党の体制は5月にスタートしたところであり、現状は社会新報号外作成にあたって、意識して人権尊重を取り上げるようにしています。
今後も無意識の差別など起きないように、党内での学習や研修などで働きかけていく必要があると考えています。

④ この法律について研修や勉強会などを県組織として行っていますか？

県連合組織としては、これからの検討課題です。

⑤ その他男女候補者を均等にするための方策について県組織のご見解をお尋ねします。

クォーター制などそれぞれの政党が組織内で努力する必要があると思います。

III 政党の男女平等政策について県組織の考え方を伺います。

① 選択的夫婦別姓導入についての今後の取り組みについて、どれかひとつを選んでください。

・選択的夫婦別姓制度を積極的に求めていく

・通称使用拡大を図る

・今のままでよい

・夫婦同姓は家族の一体化を図るうえで欠かせない

②刑法改正の3年後見直しに向けて「性犯罪に関する刑事法検討会」取りまとめの報告会が公表されました。フラワーデモなどの広がりの中で関心を集めている次の論点についてのご見解をお聞かせください。

・不同意性交罪の創設について

賛成 反対 どちらともいえない

・性交同意年齢の16歳引き上げについて

賛成 反対 どちらともいえない

IV コロナ禍で女性の困窮（健康問題・貧困問題など）がより一層厳しいものとなり、2020年の女性の自殺者数は前年より935人も増えました。女性の抱える問題に対する見解と改善施策をご提示ください。

自公政権の下で非正規雇用という働き方が拡大してしまいました。昨年来のコロナ禍により、在宅ワークや長期の休業・営業時間短縮等が求められ、そのしわ寄せ、負担の多くが女性に集中していたと思われます。経済的にも精神的にも追い詰められた結果が、自殺者の増加につながったもの考えると、その改善には困窮している女性たちへの経済的な支援は不可欠だと思います。また、コロナ感染症は災害的な一面もあります。自然災害同様、生活費の多くを占める住宅について、公共住宅の拡充が求められているのではないのでしょうか。併せて女性の雇用環境については男性の補完的な生活費を稼ぐ位置づけから、8時間働いた収入で、きちんと女性が経済的にも自立して生きていけるように、男女格差のある賃金体系の見直し、雇用形態の見直し、配偶者控除の見直しなども大きな課題だと考えます。

V 女性議員を多く輩出している諸外国の選挙制度を見ると比例代表制を取られているところがほとんどです。女性議員増を図るためには現在の小選挙区を中心とした選挙制度の見直しが必要との議論もあります。現行の選挙制度についてのお考えをお聞きします。

・現行のままでよい

小選挙区制の見直しが必要

・まだ検討していない